

日本キリスト者医科連盟（J C M A）静岡部会

デンマーク牧場福祉会 共催による 講演会のお知らせ

暑中お見舞い申し上げます。

9月22日、日本キリスト者医科連盟（J C M A）静岡部会と社会福祉法人デンマーク牧場福祉会の共催で、講演会を開きます。講師の津崎哲雄さんは、児童養護施設での指導員を経て、児童福祉学・比較社会福祉学を専攻して、教鞭をとられてきました。

2017年8月、「新しい社会的養育ビジョン」が公表され、児童施設よりも里親や特別養子縁組などの家庭養育が優先されるとの理念が出されました。「まきばの家」でも今年4月新年度からは、就学前の幼児の入所はなく、6月から7月に向け、多くの幼児たちが一時保護を経て、共に生活するようになりました。

津崎さんよりお話を伺い、社会的養護が必要な子どもたちに対する私たちの姿勢、責任や役割について、学び合いたいと願っています。どうぞご参集ください。

日時： 2018年9月22日（土）午後1時半より4時頃まで

場所： デンマーク牧場 まきばの家

内容： 講演「ただひとりの人の記憶 - 子どものライフチャンス保障を考える」

津崎 哲雄 氏 京都府立大学名誉教授

【プロフィール】

1949年大分生れ、大阪市立大学院在学時に児童養護施設指導員を、その後大阪の福祉事務所家庭相談員を勤務後、1982年より四条畷学園女子短期大学、佛教大学、京都府立大学にて教鞭をとる。

『英国の社会的養護の歴史 - 子どもの最善の利益を保障する理念・施策の現代化のために』明石書店、

『コルチャック先生のいのちの言葉 - 子どもを愛するあなたへ』明石書店（訳）など多数の著・訳書がある。

【講演要旨】

英日児童福祉比較研究を35年ほどしてきた者には、昨今のかまびすしい目黒女児虐待死事件などは起こるべくして起こっているのであり、なんら驚くことではない。とはいえ、その理由や背景を直接分析し報告するのは本講演の主旨ではない。子どもをめぐるこの種の悲惨な国家規模のスキャンダルが起るとメディアも役人も国民も大騒ぎをするが、やがて時とともに忘れ去られるという事象が永年連綿と繰り返されてきている。そうしたこの国の児童福祉制度・実践に通底する諸要因を概説したうえで、（たぶん）日本国における人を直接扱う社会サービスの劣化に関心を寄せる諸氏と共に、具体例として種々の理由（主に家庭内虐待・ネグレクト）で親と家庭で暮らせぬ社会的養護児童への社会サービスのあり方を考え、それを規定する**児童・家族と国家の関係**の一端を垣間みて、問題の究極に及んでみよう。

話の内容としては、英日比較を軸に、**児童ソーシャルワーク機関 = 児童相談所の構築、社会的養護資源（施設・里親・特別養子）と提供者既得権益、子どもの権利事情、家族リガチュア（絆）単一視問題、国・自治体の施策目標欠損、社会的共同親 / 業理念などを素材に、つまるところライフチャンスの保障と実現が児童ソーシャルワーク・社会的養護の目標であり、その社会人類学的基盤は、コルチャックの究極的フレーズ（「ただひとりの人の記憶」）に収斂すること、それは社会的養護児童のみならず、一般児童および私たち自身にも、さらに基督者自身にも通じるもの ことば・メッセージ**であろうと問いかけ、講演をむすぶこととする。

J C M A 静岡部会長 こひつじ診療所 院長 武井 陽一

まきばの家 施設長 小久保 秀樹

ディアコニア 施設長 金高 美江子

問い合わせ先 こひつじ診療所 電話：0538-23-0660

まきばの家 電話：0538-23-0770